

## 令和6年度 第2回鳥取県公共事業評価委員会 議事録

- 1 日時 【会議】令和6年8月28日(水) 8:30~17:35
- 2 場所 【現地調査】鳥取市佐治町森坪地内 国道482号  
八頭郡智頭町大呂 主要地方道津山智頭八東線  
東伯郡北栄町弓原 北条倉吉道路(延伸)  
米子市皆生新田 水貫川排水機場
- 3 出席者 【委員】猪迫会長、尾崎委員、南野委員、白石委員、笠岡委員、小谷委員  
松浦委員、橋本委員  
【説明者】道路建設課 吉川課長補佐、中尾係長  
河川課 岡田課長補佐  
【事務局】横山工事検査課長ほか工事検査課職員

### 4 概要

#### (1) 開会・会議の成立

- ・10名中8名の委員の出席(過半数出席)により、令和6年度第2回公共事業評価委員会が成立する旨を事務局が報告。

#### (2) 議事録署名委員の指名等

- ・会長が、小谷委員と松浦委員を議事録署名委員に指名。

#### (3) 現地調査

##### 【概要説明】

- 一般国道482号道路改築事業(森坪工区)  
道路建設課吉川課長補佐が資料を用いて説明
- 主要地方道津山智頭八東線道路改築事業(大呂4工区)  
道路建設課吉川課長補佐が資料を用いて説明
- 一般国道313号道路改築事業(北条倉吉道路(延伸))  
道路建設課中尾係長が資料を用いて説明。
- 大規模特定河川事業(水貫川排水機場)  
河川課岡田課長補佐が資料を用いて説明。

【質疑応答】

○一般国道482号道路改築事業（森坪工区）

（委員）

護岸を前出しする区間（河川改修区間）も3車線化するのか。

（事業担当課）

3車線化する。急カーブを是正するために護岸を前出しする必要がある、対岸は引堤する。

（委員）

護岸を前出しする区間（河川改修区間）の対岸は引堤の幅が広いが、水深を確保できないから河川幅を広くする計画なのか。

（事業担当課）

説明図面は滯筋が青着色されており、計画ラインの赤線を見ると引堤幅が広く見えるが、計画流量から幅及び高さを決めているため、必要以上に広げてはいない。

（委員）

現在、災害復旧工事で重機が佐治川内に入っているが、台風10号が来襲する前に撤退するのか。

（事業担当課）

今回の台風の様子に、何かあったときはすぐ重機を撤退できるよう体制を整えている。基本、出水期間は工事を行わないが、災害復旧は被災箇所の拡大を防ぐため、次期出水期までに完成を目指し、そうした体制を整えながら工事をしている。

（委員）

3車線化した際に片側2車線になるのは、上り下りどちらの車線か。

（事業担当課）

現在検討中。交通量、道路利用状況を勘案しながら検討していく。

（委員）

補償対象の公共施設（集落排水施設）はどこにあるか。

（事業担当課）

現地及び図面で説明。

(委員)

出水時、佐治川の上流から流下してきた巨石はどのように処理するのか。

(事業担当課)

流下してきた巨石は上流に戻さない。流下先の護岸の根固め等に利用する。

### ○主要地方道津山智頭八東線道路改築事業（大呂4工区）

(委員)

トンネル案は上方の植生（森林）への影響はなしでいいか。

(事業担当課)

上方の植生への影響はない。トンネル出入口は切土が発生するため影響する。

(委員)

社叢の植生を伐採した場合は補償するのか。

(事業担当課)

補償する。

(委員)

大型ブロックのことで、森坪工区のブロックは中詰めを植生すると前回委員会で説明を受けたが、大呂工区の大型ブロックは植生しないのか。

(事業担当課)

森坪工区のブロックというのは法枠のことで道路より上方に対策する構造物。大型ブロックは道路より下方に対策する構造物。川の水が当たる箇所に法枠は行わない。

(委員)

トンネル入口の電線は工事に支障しないか。

(事業担当課)

支障となるため補償物件として電柱移転補償を行う。

(委員)

地すべりで土砂の想定はあるが、雪崩の想定はしているか。

(事業担当課)

トンネル出入口は切土を伴うので、詳細設計時に雪崩防止柵が必要か検討することになる。

○一般国道313号道路改築事業（北条倉吉道路（延伸））

(委員)

地中障害物の処理はどうするのか。

(事業担当課)

材径30cm以下であれば盛土材として使用することもあるが、それ以上大きいと、小割りして処分することになる。

(委員)

その費用についても、今回の増額分に見込まれているか。

(事業担当課)

見込んでいる。

(委員)

橋脚横の松が枯れているように見えるが、工事影響によるものか。

(事業担当課)

施工自体は国土交通省となるが、一般的に飛散防止措置を講じていただいているため、工事影響によるものではないと考えている。

(委員)

海と近い場所であるが、塩害対策はされているのか。

(事業担当課)

鋼製桁には重防食塗装による防錆処理を行っているほか、橋台や橋脚では、内部鉄筋から

コンクリート表面までのかぶりを厚くし、飛来塩分からの腐食防止対策を行っている。

(委員)

杭打機の支持力確保のために、当初見込んでいなかった地盤改良(セメント改良)が行われているが、これに伴って打設する砂杭の本数は減るのか。

(事業担当課)

増額理由の地盤改良(セメント改良)は、杭打機が転倒せずに作業できるように表面だけを改良するものであり、軟弱地盤対策として実施する砂杭の打設本数は変わらない。

(委員)

セメント改良した部分は、砂杭の打設後は盛土の中に存地するのか。

(事業担当課)

そのとおり。

(委員)

先行掘削が必要となった場所はどこか。

(事業担当課)

北条湯原道路側の土留擁壁の基礎杭8本において先行掘削を行った。

(委員)

土留擁壁の基礎杭全てに先行掘削を実施したのか。

(事業担当課)

そのとおり。

## ○大規模特定河川事業(水貫川排水機場)

### <排水機場進入路にて>

(委員)

工事で地下水位を低下させるとのことだが、具体的にはどのような施工をしたのか。

(事業担当課)

(パンフレットの横断図を用いて) まず矢板締切を行い排水を行いながら土砂掘削を行っている。その後、(掘削) 底面に地下水をくみ上げるためのポンプを設置し排水を行うことで地下水位を低下させ、コンクリートの打設などを行う手順で施工している。

(委員)

排水した水はどこに排出したのか。

(事業担当課)

濁水対策をした上で、水貫川に排水している。

(委員)

現場の水位を下げ水貫川に排水すると(水貫川の)水位が上がり現場に戻りやすくなるように思うが。

(事業担当課)

排水した水が直ぐにもどるということではなく、水貫川と現場の間には矢板と地盤があるため、水はゆっくりと時間をかけて戻ってくることになる。

(委員)

実際に井戸を使われている家はあるのか。井戸を使う家は古いイメージがあるが、周辺を見ると新しい家が多いように感じる。

(事業担当課)

全部が井戸というわけではなく、用水として地下水を利用されている家もあるが全部で40か所程度利用されている。

この辺りは都市計画上も家が建てられる区域となっており、比較的古くから市街化が進んでいる地域になる。

#### <排水機場建屋内に移動>

(委員)

建物の壁は防音壁になっているのか。(防音対策ができているのか)

(事業担当課)

周辺に住宅などもあり、ポンプがフル稼働した場合でも建物の外側で基準値の65db

以上とならないよう、防音対策も検討し実施している。

(委員)

操作室があるとのことだが、遠隔操作できるようになっているのか。

(事業担当課)

今の設計は直接人が来て操作する仕様となっている。一方、ご承知のとおり人口減少社会であり、将来的に遠隔化できるような拡張性は持たせている。ただ、直近ですぐすぐ遠隔操作をするようなことは今のところは考えていない。

(委員)

操作室には人が常駐することになるのか。

(事業担当課)

常駐ではなく、操作をするタイミングで操作員が来ることになる。タイミングについては詳細を検討しているところ。

(委員)

建物の壁の北側と操作室部分にくりぬきができるようマーキングがしてあるが、後々監視等ができるようにするためのものか。

(事業担当課)

操作室部分はポンプと操作室との間で電気信号等を送るための設備を設置することになる。

北側の壁については、ポンプがディーゼルエンジンで動くため、排気ガスを排出するための排気口となる。

(委員)

住宅がすぐそばにあるが、ディーゼルエンジンの排気ガスを出して大丈夫なのか。

(事業担当課)

エンジンから出た排気ガスをそのまま排出するわけではなく、触媒装置を通じて排出することになるため、汚れた排気ガスがそのまま外に出るということではない。

<排水機場屋外に移動>

(委員)

先ほど説明のあった触媒装置関係は屋外のスペースにつくのか。

(事業担当課)

触媒装置自体は屋内に設置し、屋外には排気口を取り付けることになる。

ご指摘のスペースには、除塵機装置を取り付け、水貫川から流れてくる藻やゴミをシャットアウトし、ここで掻き出すことになる。

(委員)

流入水路の開口部分は最終的に塞ぐのか。

(事業担当課)

塞ぐことはない。ただ、排水機場の外周には一般の方が立ち入ることのないようフェンス、鍵扉を設置するよう考えている。

(委員)

樋管や吐出水槽の水を排水するために、吐出水槽から水貫川の流入路方向に向かって排水路を設けているとの説明であったが、ポンプ稼働中に吐出水槽から水貫川に水が排水（日野川の水が水貫川に逆流）されてしまうのではないか。

(事業担当課)

吐出水槽内に排水路用のゲートを設置しており、ポンプ稼働中はそのゲートを閉じるため、(ポンプ稼働中は)吐出水槽内の水を水貫川に排水（日野川の水が水貫川に逆流）することはない。

令和6年8月28日

会 長 猪 迫 耕 二

署名委員 松 浦 聡 子

署名委員 小 谷 美 穂